

皮膚科のトリビア

209

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第70回日本アレルギー学会学術大会から

令和3年10月9日

『アレルギー性結膜疾患ガイドライン』の刷新

2021年に『アレルギー性結膜疾患ガイドライン』が第3版に改訂され、発表された。アレルギー性結膜疾患(allergic conjunctival disease: ACD)は、アレルギー性結膜炎(allergic conjunctivitis: AC)、アトピー角結膜炎(atopic keratoconjunctivitis: AKC)、春季カタル(vernal keratoconjunctivitis: VKC)、巨大乳頭結膜炎(giant papillary conjunctivitis: GPC)に分類され、ACはさらに季節性(seasonal AC: SAC)、と通年性(perennial AC: PAC)に分類される。VKCとGPCは、乳頭の形状が異なる、GPCではほとんどの場合角膜病変は伴わない、GPCはコンタクトレンズ、義眼などの原因を除去することで速やかに改善するなどの点で異なる。2017年の日本眼科アレルギー研究会有病率調査によるとACDの有病率は48.7%で、スギ・ヒノキによるSACが37.4%、PACが14.0%、スギ・ヒノキ以外の原因によるSACが8.0%、AKCが5.3%、VKCが1.2%、GPCが0.6%であった。

一言コメント

「春先には外用薬と一緒に点眼薬の処方希望を受けることがしばしばある。ガイドラインには4疾患の鑑別のほか、治療で用いる点眼薬に関しても詳しく述べられているので、皮膚科医としても一読しておく価値があると思った。日本眼科学会のHPから閲覧可能。」

●第70回日本アレルギー学会学術大会から

令和3年10月9日

成人アトピー性皮膚炎患者のFeNO

中等症から重症の成人アトピー性皮膚炎患者で、デュピルマブの投与開始にあたり、喘息の併存を確認しておくために呼気中一酸化窒素濃度(FeNO)を測定した。デュピルマブ投与前の60名の患者で検査を行い、FeNOの値が22 ppb以上が57%、50 ppb以上が26%であった。喘息の既往がない群でも22 ppb以上が46%、50 ppb以上が8%あった。皮膚症状の重症度、TARC値、LDH、総IgE値、EASIスコアとは相関がなく、末梢好酸球数のみ相関がみられた。

デュピルマブ治療の16週間後には全症例で低下がみられ、皮膚症状のデュピルマブ反応性との関連はなかった。

一言コメント

「いずれ発表されるデータだと思っていた。好酸球以外にも関連する因子があればよかったのだが、それはなかったとの結論である。ただ、呼吸器症状がなくても気道の好酸球性炎症があるということがわかった。22 ppb以上だと喘息の可能性が大、37 ppb以上では喘息と診断できる。」

●第70回日本アレルギー学会学術大会から
令和3年10月9日

食物によるアレルギー性胃腸炎では血清TARC値が高い

鶏卵などによるアレルギー性胃腸炎(food protein-induced enterocolitis syndrome : FPIES)の13症例で、20回の急性期エピソードがあり、血清TARC値、血球数、CRP、メトヘモグロ빈を検討し、感染性胃腸炎と比較した。年齢の中央値は1.1歳、中等度以上の皮膚症状を持つ児はいない。血清TARC値の中央値はFPIES群で2,053(410~8,147)、対照群で502(104~2,034)でFPIES群で有意に高値だった。他のマーカーは有意差なし。TARCのカットオフ値を1,062とすると、FPIESの診断感度が95%、特異度が95%だった。胃腸炎の重症度にも反映しており、重症例の中央値が6,320、中等症例で2,020、軽症例で1,087であった。

一言コメント

「TARC値が皮膚病変と同様、胃腸炎の重症度とも比例しているという面白い結果である。消化管粘膜の障害がTARC値上昇に関連しているのだろうか。」

●第70回日本アレルギー学会学術大会から
令和3年10月10日

臍帯血移植後に発症する食物アレルギー

20歳代女性、再生不良性貧血に対し、臍帯血移植を受けた。その6カ月後、親子丼摂取後に呼吸困難・腹痛・嘔吐。卵白の特異的IgEはクラス2、オボムコイドは陰性。40歳代女性、急性骨髄性白血病に対して臍帯血移植を受け、5カ月後から半熟卵摂取後に蕁麻疹・咽頭違和感・嘔吐・下痢。卵白の特異的IgEはクラス4、オボムコイドは陰性。移植片対宿主病(graft versus host disease : GVHD)による粘膜障害から食物抗原の感作が成立したのではないかと考えた。

一言コメント

「GVHDが原因かどうかはわからない。移植した臍帯血ホストのアレルギー歴はどうなのだろうか。成人になってからの鶏卵アレルギーは、特殊な状況であることに変わりはない。」

●第70回日本アレルギー学会学術大会から
令和3年10月10日

Behçet病・高安動脈炎の症状を生じた結核

40歳代女性、発熱、咳嗽、毛嚢炎、口腔内アフタ、陰部潰瘍からBehçet病を疑う。炎症反応が持続するため、造影CTを行ったところ、大動脈の壁肥厚があり、PET-CTで集積を認め、高安動脈炎を疑った。ステロイド内服開始予定のため胸部CTを再検すると、肺尖部に不整形結節があり、喀痰培養は陰性だが、T-SPOTが強陽性で、活動性肺結核とそれに随伴する結核性大動脈炎と診断した。

一言コメント

「治療のリスクを考慮し、論理的に検査を進めた結果、正しい診断に至ったという、貴重な症例報告だった。」

●第70回日本アレルギー学会学術大会から
令和3年10月9日

エビアレルギーがダニ舌下免疫療法で改善した

調理科のある高校に在学中の男性。エビの炒め物を食べた5分後に顔面の腫れと呼吸苦が出現した。エビのプリックテスト陽性、エビ、カニの特異的IgEはクラス2。ゆでエビ2/3尾の経口負荷で咽頭違和感と痒みを生じ、除去の方針とした。同時期から、通年性のアレルギー性鼻炎のために、ダニ舌下免疫療法を開始。4カ月後の検査で、エビ特異的IgEの低下があり、ゆでエビ1尾の経口負荷試験でも症状の誘発がなくなっていた。甲殻類アレルギーの主なアレルゲンはトロポミオシンで、ダニとの相同性、交差反応性が報告されている。

一言コメント

「トロポミオシンの相同性は甲殻類と同じ節足動物に属するゴキブリ類、ダニ類が約80%、軟体動物のタコ、イカ、貝類が60%程度で、いずれも抗原交差性が確認されている。一方脊椎動物の鳥類、哺乳類もアミノ酸配列の相同性は60%程度あるのだが、抗原交差性は確認されていないとのこと。」